カラー■DOGEN2002　ドイツにて熱く禅を語る……1
特集●ドイツ　高祖道元禅師二五〇回大遠忌記念ゼミナール……15
●永平寺　大遠忌参拝団に参加して……形山　俊彦　29
カラー■黒田老師、午時諷経を奉修……33
特別読物●超神仏習合寺院出現とその社会的背景……佐々木宏幹　37
特別寄稿●イスラム原理主義とテロ行為……伊藤　博　47
ニュース●黒田住職産経新聞「この人に聞く」に登場……58
カラー■タイ　世界仏教徒連盟でスピーチ……61
連載●くらしの中で読む『正法眼蔵』面授の巻・その八……小倉　玄照　82
特別寄稿●現代社会と仏教……引田　弘道　90
カラー■黒田武志老師・倫子令夫人祝賀会……97
特別寄稿●日本仏教における聖水　～真言宗のケーススタディ～……ダンカン・隆賢・ウィリアムズ　118
●「国交樹立50周年記念」友好親善使節団・スリランカ訪問……131
●平成十四年「成寿山善光寺総代会」……150
●梅嘉庵　上棟式……152
●松本密師講演……154
ニュース・アラカルト……157
新刊紹介……162
声　139　読者のたより　143　善光寺開創35周年記念行事のお知らせ　156
題字・イラスト　伊藤三喜庵

巻頭言

善光寺住職　黒田武志

「仏道をならうというは　自己をならうなり」

道元禅師さまの正法眼蔵からの一節です。私たちが仏の道を学ぶということは、実に自分自身を学ぶことだと教えていただきました。道元さまはかって中国の留学から帰国されて、その第一声「われ彼の地において柔軟心を学ばん」といわれ、まことにこの柔軟心こそ人間にとって最も大事な心得であると遺しておられます。

人間というものは、固定観念や先入観念、偏見などに捉われ、振り回されても

のを考えてしまいます。そんなとき自分の間違ったことに気づかず間違いを犯してしまうことが少なくありません。昨今、価値観の多様化や或いは希薄化から、よってたつ人間の尊い心までが失われてゆくことを私は危惧しております。道元さまの柔軟心を学ぶということは、人間としての最高の智慧、すなわち生き方の根本的問題を解決できる心を学びとることだと教えていただいているのです。

善光寺開創以来、私の信念と信仰は「宗祖を通して釈尊に還る」であります。この一年私にとりましても「いまここ」に全身全霊を傾注し過ごしてまいりました。慕古心に導かれ、奇しくも遭い難くして遭うことを得たり、道元禅師さま生誕八〇〇年、大遠忌七五〇年という大事に臨み、私は禅師さまを偲び大本山永平寺に拝登いたしました。道元さまがそこに居ますがごとく御前に茶菓湯を献じ、香を薫じる報恩御供養の「焼香師」を拝命致しましたことは誠に感謝に堪えませ

ん。さらには檀信徒総勢一〇〇名の方々とこの遠忌を無事に執り行うことができましたことは、至極身に余る栄誉で終生忘れるものではございません。

二月には、曹洞宗特別奨励賞と大教師補佐、祝賀の大宴を頂戴し、また八月初頭ドイツ・アイゼンブッフ禅センター主催の「DOGEN 二〇〇二 七五〇回忌記念セミナー」に招かれ、時に道元思想からみた現代思想へのアプローチを軸に、修証義の心を講演させていただきました。同時に行われましたパネルディスカッション等で、お釈迦様の諸行無常のお悟しや、禅師さまの今に生きる世界観に国境や民族、宗教を越えて共存共有できる心とその偉大さにドイツに居て、いまさらながら感得致しました。さらに十月タイ国ブッダモントンで開かれた世界仏教徒青年連盟（WFBY）の招請で、タイ最高仏教指導者と青年僧多数を前に、日本仏教と道元さまの開かれた曹洞禅を講演させて頂きました。会場の輝いていた

青年僧の目の美しさは、今でも忘れることができません。会場での大反響に今さらながら道元禅師さまの「只管打坐」から発せられる二十一世紀へのメッセージは、南方仏教の伝播ルートを逆流し始めたのではないかとさえ観ぜられてなりませんでした。

この一年、私はまさに道元禅師さまに始まり、道元禅師さまに終わる、そんな思いを改めて感じさせて頂いております。善光寺も二〇〇三年五月には開創三十五周年を迎えます。育英会も二十年、成人に達します。これは私にとっても檀信徒の皆様にも大きな区切りであります。「年々歳々、咲く花は同じ、歳々年々人間同じからず」お互い様、残された人生と続く子孫代々への限りなき豊かさと幸せのため、大いなる仏教を通じてその役割と使命が果たせますよういよいよ精進して来る年を迎えたいと祈願いたします。

吉祥天